

特別活動における言語能力の整理

特別活動における言語能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を，筋道を立てて説明すること。 ・他者の意見を聞いて，その内容を理解すること。 ・対話を通して，情報を吟味したり考えを構築したりして，集団としての最適解を導くこと。 ・自分の課題や目指す姿に対して，集団の中で相互に考えを伝え，深め合いながら解決する目標を決めること。 			
	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
学級活動 (1)	・自分の意見を発表する。	・理由を明確にして考えを伝える。	・自分の言葉で建設的な意見を述べ合う。
	・他者の意見をよく聞く。	・自分と異なる意見を受け入れる。	・相手の立場や考え方を理解し，相手の思いを受け止めて聞く。
	・合意形成を図る。	・集団としての目標や活動内容について合意形成を図る。	・多様な意見のよさを積極的に生かして合意形成を図る。
学級活動 (2) (3)	・正しい方法や自分に合った方法を選んで目標を決める。	・問題を自分のものとして考え，具体的な解決方法や目標を決める。	・自己の問題を受け止め，資料などを参考にして自己に合った実現可能な解決方法や目標を決める。
	・目指す姿について話し合い，出された意見を参考に自分の目標を決める。	・教師の思いや保護者の願いを知り，目指す姿について話し合い，具体的な解決方法や目標を決める。	・自分や周りの人の学校生活への希望や願いを基に，話し合いを通して目標を決め，自他のよさを伸ばし合う。

言語能力とその育成方法

	言語能力	育成方法	育成方法の詳細
学級活動 (1)	①自分の意見を，筋道を立てて説明すること。	・話し合うことについて考えたり，情報を収集したりして，自分の考えをまとめる。	・提案理由を明確にし，「視点」として示すことで，自分の意見の根拠として述べるよう促す。
	②他者の意見を聞いて，その内容を理解すること。	・自分の考えと比べながら聞き，共通点や相違点について考えさせる。	・発言する際に，他者の意見との共通点や相違点を明確にして述べるよう促す。
	③対話を通して，情報を吟味したり考えを構築したりして，集団としての最適解を導くこと。	・意見の違いや共通点をはっきりさせながら話し合う。 ・少数の意見も大切にしながら，多様な意見のよさを生かして学級全体で合意形成を図る。	・思考ツールを用いて，たくさんの意見を段階的に絞っていきながら，意見を吟味する。 ・提案理由を基にした「視点」ごとに色分けした賛成マークを使い，それぞれの意見の良さを比較しやすくする。
学級活動 (2) (3)	④自分の課題や目指す姿に対して，集団の中で相互に考えを伝え，深め合いながら解決する目標を決めること。	・現状を分析し，課題となっているものを探る。 ・分析した課題の解決策を，他者と交流しながら考える。 ・個に応じた具体的な実践方法や目標を決める。	・学級の現状を調べたり，自分の現状や目指す姿について考えたりする。 ・課題となっているものを集団で共有し，共感的に話し合うことができるようにする。 ・「すぐにできそうなこと」「先々できるようになりたいこと」と段階的に意思決定させることで，より具体的な目標として実践に向かうようにする。

実践の概要

第6学年3組 学級活動(1) 学習指導案

- 1 議題名 「教生先生ウェルカムパーティー」6の3スイッチ、オン!～お迎え編～
学級活動(1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2 議題の構想

(1) 議題について

本校では、毎年各学級に3～4人程度の大学生が教育実習生として配属される。子供たちは実習生が大好きだ。同級生や家族、教師とは異なる、年が近い大学生との触れ合いは、子供たちの生活に新しい風を吹かせる。普段接する機会の少ない大学生と、一ヶ月を通して、共に語り、共に学び、共に遊ぶ中で、新しい人間関係を形成していく経験は、子供たちにとって非常に有意義な学びの機会となりうる。それ故、その出会いの場を大切にしたい。「期待と不安を抱いた実習生を温かく迎え入れよう」という共通の目標を設定することで、どうやって相手を楽しませるか、相手意識をもって試行錯誤しながら協力して取り組む姿が期待できる。これまで、自分たちが楽しむためのイベントを実践してきた児童にとって、新たな視点の課題が生まれ、その解決に向けて協働して実践する態度を育成する上で適した議題といえる。

(2) 児童について

本議題に至るまで、「みんなで遊ぼう」「6の3オリンピック」「サマーフェスティバル」等の実践を行い、全3回の学級会を経験している。児童は、議題を決め、話し合い、決まったことを実践し、振り返るという一連の学習過程を積み重ねている。実践後の振り返りでは、学級の成長した点として「みんなの意見を取り入れることで、より盛り上がる事ができた」「学級目標の実現に近づいた」等の意見が出された。また、個人の成長した点として「学級のために自分の役割を果たす事ができた」「みんなの前に立ってイベントをリードすることに初めて挑戦した」等の意見も出た。実践を通して、みんなで一つのイベントをつくり上げる事のよさや、その過程で、学級の一員として活動することの充実感を味わっている様子がうかがえる。一方、話し合い活動においては、それぞれの意見が平行線を辿り、合意形成が難しい場面が見られるという課題がある。賛成意見、反対意見は出るものの、最終的な決定打に欠け、決めることに時間を要することが多くあった。フローアは、どういう視点で決定に向かえばいいのか、司会グループは、出された意見をどう整理すればよいかの共通理解できていないことが原因だと考えられる。

(3) 指導について

指導にあたっては、学級で実習生を迎えるという共通の目標をもつ仲間と共に、計画を立て、話し合い、実践に移す過程の中で、仲間と一緒に創り出すよさを味わうことができるようにする。事前の活動では、議題を学級全体で共有し、活動を中心となって進める実行委員を募る。その際、何のためにその活動を行うのか、どんな活動にしたいのかについて共通理解を図り、提案理由を児童と共に作るようにする。本時では、実行委員の提案に沿って話し合い活動を行う。児童の実態を踏まえ、提案理由のキーワードを、話し合いの「視点」として全体で確認する。フローアには、この「視点」に沿って意見を述べるよう促す。司会グループは、「視点」ごとに色分けされた賛成マークを使い、どんな理由が集まっているのかを整理しながら、問題点、解決策を短冊にまとめていく。また、ピラミッドチャートを用いて、たくさんの意見を段階的に絞っていきながら、何について話し合っているのかを視覚的に分かりやすくできるように助言する。実行委員は、より多くの「視点」を満たしている意見やみんなが納得できる意見を取り上げながら、合意形成に向けて働きかける。事後の活動では、決定されたことに基づき、朝の会等で役割分担を行い、児童の自主的、実践的な活動を支援していく。イベントを行った後には、振り返り活動を行う。実践に向かう過程でどのような力が身に付いたのか、どのような課題があったのかを、個人と学級全体の視点から振り返る。イベントを通して自分と学級が成長したことを価値付け、次の実践へ向かうようにする。

3 議題の目標

イベントにおける自主的、実践的な活動を通して、協働して実践することの大切さを理解し、多様な意見を生かして合意形成を図り、自分の役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。

4 議題の評価規準

- ア みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している 【知識・技能】
- イ 楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。 【思考・判断・表現】
- ウ 見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。 【主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度】

5 本時の指導（2/4）

(1) 目標

議題について話し合う活動を通して、どうすればよりよいイベントになるかを考え、提案理由に沿った意見をもとに合意形成を図り、実践への意欲を高めることができるようにする。

(2) 評価規準

イ どうすればよりよいイベントになるかを考え、合意形成に向けて話し合うことができる。

【思考・判断・表現】

(3) 本時の展開

学習活動と児童の反応 (□□)	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 本時の議題や提案理由、話し合いのめあて、決まっていること、柱の確認をする。(5分)</p>	<p>1-(1) 実習生からのメッセージ動画を見せ、相手意識を明確にするとともに、意欲を高める。 1-(2) イベントを行う意義や提案理由に基づいた視点を根拠に意見を出し合うよう伝える。</p>
<p>【議題】 教生先生ウェルカムパーティーを開こう</p>	
<p>2 柱に沿って話し合う。(35分) 柱1：何をするのか</p> <p>【フローア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなが楽しめる」という視点から、「ドッジボール」に賛成です。ドッジボールは、6の3でもよくやっているし、教生先生にも楽しんでもらえると思うからです。 ・「6の3の劇をする」に問題点があります。全員が劇には参加できないし、何人かだけしか関われないと思います。 ・何人かしか関われないという問題点に解決策があります。道具を作る係や台本を考える係など、役割を分担したらみんなが参加できると思います。 <p>【実行委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇の意見は、視点を満たして、提案理由にも合っているの、取り上げたいと思います。 ・みんなの意見を聞いていると、□□の意見がよいと思いますが、どうですか。 	<p>2-(1) どの視点からの賛成意見が集まっているかを意識させるため、視点ごとに色分けされた賛成マークを用いる。 2-(2) ピラミッドチャートを用い、話し合いの流れを可視化することで、論点を絞りながら話し合いが深まるようにする。 2-(3) フローアから出された意見をよく聞き、話し合いの流れにそって問題点や改善点を記入したり、短冊を操作したりするよう黒板書記に助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆ 提案理由の視点に沿った考えを述べ、よりよいイベントになるよう話し合うことができるか。(発言・観察)【思・判・表】 B 視点に沿って、自分の意見を述べている。 → 視点を再確認した上で、どの意見に賛成できるか、またその理由を問いかける。</p> </div> <p>2-(4) 学級全体の話し合いとするため、発表していない児童に発言を求めたり、近くの人と交流する時間を設けたりするよう司会者に伝える。 2-(5) 意見がまとまらない場合は、提案者である実行委員に意見を求める。説得力があった意見をもとに、みんなが納得できる案が提案できるよう実行委員に助言する。</p>
<p>3 本時の振り返りをする。(5分)</p> <p>・〇〇さんの意見は、みんなのことを考えていて、説得力があった。 ・楽しいイベントになりそうなので実践が楽しみ。早く教生先生に会いたい。</p>	<p>3-(1) 話し合いのよかった点について振り返り、価値付けることで、今後の話し合い活動につなげる。 3-(2) 学級のために、話し合いに向けて準備を進めた司会グループや実行委員、建設的な意見を出した児童を称賛し、本時の話し合いの意義について話すことで、活動への意欲を高める。</p>

授業の実践と考察

(1) 自分の意見を、筋道を立てて説明する力の育成

話し合い活動においては、話し合う内容や友達の意見に対して、自分の意見を述べる事が求められる。自分がやりたいと思うこと、友達の意見に対して同意すること、あるいは同意しかねるものなど、集団で話し合う上で自分の思いを表出することは非常に重要である。その際、自分の意見の根拠となるものを明確に述べる必要がある。自分の意見に説得力をもたせるため、たくさんの人から同意を得るためには、根拠を明確にして分かりやすく説明しなければならない。そこで、本議題においては、議題の提案理由からキーワードを抽出し、話し合いの視点として提示する手立てをとった(図1)。提案理由には、活動を行う意義や目的が含まれている。これらをキーワード化することで、活動のゴールを明確にし、どんな意見が決定にふさわしいのかを判断しやすくすることをねらった。これにより、より多くの視点を満たした意見に決めようとする意識が働き、提案理由を根拠にしながら自分の意見を述べる児童の姿が多く見られるようになった。また、3つの視点を色分けして提示することで、視覚的にもどのような根拠の意見が出されたかを分かりやすく示した。合意形成に向かう際に、それぞれの意見にどのような賛成意見が出ているかを判断しやすくなり、よりよい決定に向かって建設的な意見を述べる事ができていた。

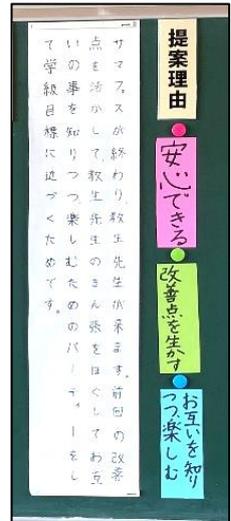


図1 3つの視点

(2) 対話を通して、情報を吟味したり考えを構築したりして、集団としての最適解を導く力の育成

集団で話し合う際には、多様な意見が出される。それぞれの意見について吟味し、それぞれの意見のよさを生かしながら、集団としてよりよい決定に向かって議論していくことになる。ここで、情報を吟味する手立てとして、思考ツールの活用を試みた。ピラミッドチャートを用い、段階的に意見を絞っていくことで、話し合いの流れを可視化し、意見を比較しやすくすることをねらった。あらかじめ集約していた意見を下段に提示し、まずは半分に絞ることを目指して賛成意見を中心に意見を比べ合った。賛成意見が多く出たものから中段に上げ、半分程度に絞れた段階で、更にそれぞれの意見について比べ合う。ここでは、それぞれの意見のよさはもちろん、問題点や改善点も出し合いながら吟味した。問題点に対しては改善点を考え、知恵を出し合いながら何とか実現できる方法を探ろうとする児童の姿が見られた。最終的にまとめる段階では、「3つの視点を満たしているものは決定してよいのでは」と合意形成に向かう発言や、「問題点はあっても、それに対して改善策が出ているので、やり方を工夫すれば実現できると思う」といった新たな考えを構築しようとする発言が見られた。視点を色分けして分かりやすく示し、段階的に意見を絞っていくことが、吟味する対象や視点が明確になり、集団としてよりよい決定に向かおうとする児童の姿につながった(図2参照)。

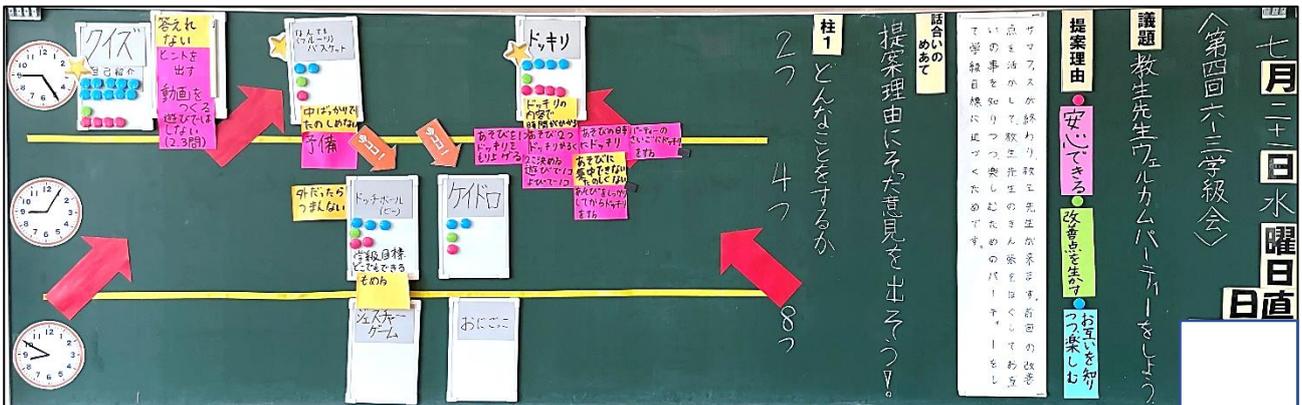


図2 本時の板書